

●R5年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

課題の類型1	課題の類型2	課題の詳細	左記課題の解決のために本事業で取り組むこと	本事業で達成する目標(アウトカム)	目標の達成度を測る指標	本年度の目標値	本年度の実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析(事業における成果、課題、改善点等)
①学校運営上の課題	社会に開かれた教育課程への対応	各小・中学校では、毎年度、「地域連携担当教職員」を選任することになっているが、新たに着任・選任された場合などにおいて、地域との関係性や団体、人材、企業等の情報不足から、地域との連携に係る取組みの企画立案、調整、実施に苦慮している。「働き方改革の推進」もあり、学校が独自に、連携・協力してくれる地域団体や人材、企業等を開拓することは困難な状況にある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会内に、事業推進コーディネーターを1名配置。</li> <li>・公民館全37館中、基幹的な公民館に、社会教育指導員を6名配置。</li> <li>・事業推進コーディネーター、社会教育指導員、公民館職員を「地域学校協働活動推進員」に位置付け。</li> <li>・公民館がコーディネート役となり、地域連携担当教職員と連携しながら、学校のニーズに応じた地域学校協働活動の取組みについて、企画立案、調整、実施を支援。</li> <li>・上記体制整備と併せ、地域学校協働活動推進員向けの「地域学校協働活動研修会」や「事例研究発表会」等によるスキル向上に取り組み、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた地域学校協働活動の推進を図る。</li> </ul>	<p>公民館を中心とした支援体制の構築により、学校のニーズに応じた地域との連携が適切かつスムーズに実施され、地域学校協働活動の更なる推進が図られる。</p> <p>また、地域学校協働活動に係る学校又は教職員の負担軽減がなされ、「働き方改革の推進」に寄与する。</p> <p>(将来的には、学校が独自に、地域の自発的な連携・協力を得られる環境づくりを目指すもの)</p>	<p>学校単位・授業単位における地域連携の取組みについて、学校に対する事後アンケートにより、下記項目(案)を5段階評価等により評価し、取組みの総合的な「充足度」を測る。</p> <p>【具体的な評価項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師(地域団体、人材、企業等)の選定が適正だったかどうか</li> <li>・取組みの企画立案、調整、実施がスムーズに行えたかどうか</li> <li>・学校側の目的(児童・生徒への学習目的)を達成できたかどうか</li> <li>・教職員の負担軽減がなされたかどうか (など)</li> </ul>	90%	99%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果によると、学校教職員の本事業に対する満足度は非常に高く、地域との連携や教職員の負担軽減につながったもの考えられる。</li> <li>・市内3地区での地域学校協働活動養成研修会の実施により、公民館と学校のグループワークにてニーズや課題について情報共有が行われた。</li> <li>・各学校に本事業の周知が進み、郷土学習やキャリア教育などに対する予算活用実績が、現在の手挙げ方式になった令和2年度以降、過去最高(41校64事業)となった。</li> <li>・予算活用実績が、実施校や地域に偏りが見られるため、「いわきまなびナビ」による活動報告の発信や、地区別での公民館職員と地域連携担当教職員との情報交換会の実施等、更なる事業の周知、理解を図る。</li> </ul>
③学校と家庭の課題	放課後等における多様な体験活動	現在の学校週5日制は、学校・家庭・地域の三者が連携し、役割分担しながら、社会全体で子どもを育てるという基本理念を踏まえて導入されたものであるが、スポーツ少年団への参加や習い事など様々な経験を積んでいる子どもたちがいる一方、土曜日を必ずしも有意義に過ごせていない子どもたちも少なからず存在する。子どもたちの土曜日における学習環境の充実に向けた取組みの強化が求められている。  (参考)文部科学省「土曜日の教育活動推進プロジェクト」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会内に、土曜学習コーディネーターを2名配置。</li> <li>・公民館全37館中、基幹的な公民館に、社会教育指導員を6名配置。</li> <li>・土曜学習コーディネーター、社会教育指導員、公民館職員が中心となり、実施を希望する小学校との協議により、地域の多様な経験・技能を持つ人材、企業、高等教育機関等の協力の下、主として土曜日に、多様な観点から体系的かつ継続的な「土曜学習」プログラムを計画・実施する。</li> </ul>	<p>土曜日における様々な体験学習の機会提供により、子どもたちの豊かで有意義な学習環境の整備が図られる。</p> <p>自然環境や郷土文化・歴史、工場見学、農業体験、科学実験など、学校の教育課程以外における地域と連携した様々なプログラムの実施により、子どもたちの情操教育の充実に資する。</p> <p>公民館を中心とした実施体制により、学校の負担を最小限に抑えながら、地域全体で子どもたちの成長を支える環境づくりに寄与する。</p>	土曜学習プログラム参加児童の満足度	100%	100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度は新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたこともあり、当初予定170講座中156講座実施することができた(92%達成)。</li> <li>・企業・団体等講師と連携して行った講座を新たに13講座企画するなど、引き続き、学校の教育課程以外における地域と連携した様々なプログラムを実施した。</li> <li>・講座ごとに行っている児童の満足度調査においては、目標値である100%を達成した。本事業が子どもたちの学習の質の向上や多様な体験の機会創出につながったものと考えられる。</li> <li>・当該事業への参加を希望する学校を今後どう増やしていくかが課題のため、本事業の周知を継続的にを行い、学校と公民館の協力体制の構築に努める。</li> </ul>